

# クリニカルサイコロジスト

## THE CLINICAL PSYCHOLOGIST

日本臨床心理学会事務局 〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内 nichirinshin@univcoop.or.jp  
 Tel. 03-5307-1175 (月・金 10時-17時) FAX: 03-5307-1196 郵便振替 00190-8-59797 公式HP <http://nichirinshin.sakura.ne.jp/>

\*\*\*\*\*

### 第21期日本臨床心理学会運営委員長挨拶

第21期運営委員長  
谷奥克己

今回、運営委員長に選出されました谷奥克己と申します。私が、日本臨床心理学会に入会した契機は、心理テストの差別性と国家資格への疑問が出た1971年第7回大会でした。当時、障害のある子どもは、能力別で学校が分けられ、障害の重い子どもは、養護学校からも締め出され、就学を猶予・免除される時代でした。障害のある子どもの行き先を決めるために就学時健康診断が義務や強制付けられており、その差別的な心理テストによって振り分けられ、選別されてきたのです。そのため、地域の幼稚園（保育所）から地域二校区である小・中学校への就学（園）運動をすすめてきました。

現在は、社会福祉法人における生活介護・就労支援、NPO法人の放課後デイサービス事業を運営しています。

インクルーシブな社会（教育・生活）を目指して、日常活動をすすめています。インクルーシブな社会ということには、排除されてきた側の人たちと、排除してきた側の人たちとが「共に生きる」ということをめざそうとする思いが含まれています。

当初、私は、立候補を予定していませんでした。役員の立候補は、1971年の改革以来、立候補者全員が総会で、拍手で信任されてきました。しかし、今回の8月10日の総会では、無記名投票による選挙方法が採用されました。ところが、選挙で信任されたのが5名のうちの2名になってしまったため、選挙管理委員と議長団が、「運営委員が2名では学会運営が不可能」と判断し、追加立候補を求めました。そのため、私を含めての6名が直ちに書面での追加立候補を表明いたしました。委任状については、期日内立候補者5名に対する委任状となるため、議場内の会員数に限って、当日の有権者一人に1枚のみの投票用紙を配布した形で、信任投票が行われました。その結果として、追加立候補者の6名全員が当選と判断されました。その当日直後の運営委員会で討論を行い、互選の結果、運営委員長を引き受けたわけです。

御存知のように、今の学会内部では、運営を巡っての論議が生じており、研修体制や組織運営も含め、学会のあり方が問われています。時代状況として、国内のあらゆる組織の在り方が問われていると言えます。特に臨床心理学にかかわる国家資格制度についても、その内容を巡って、日本心理臨床学会有志会員からも専門性が薄れる等の意見も出て来ていると聞いています。このように「真の臨床心理学とは何なのか」という国家資格の内容そのものが問われているのだと言えます。

今回の役員選挙を巡る議論を考えると、今後は、日本心理臨床学会（一般社団法人）理事選挙や日本児童青年精神医学会評議員選挙のように、会則変更も含め、会員全員を対象とした選挙システムの導入も含めて検討していく必要があります。

また、第20期酒木運営前委員長が課題として提案されている①監事権限の確認②第三者委員会設立③オンブズパーソン選任ルール制定等、会務の停滞を打破する方策についても討議を深めたいと思います。会員の皆様、運営への御支援、ご協力よろしくお願ひします。



\*\*\*\*\*  
第 21 期運営委員会役員体制が決まりました

第 21 期運営委員会の役員体制が、9 月 22 日の運営委員会で下記の通り決まりました。

運営委員長 : 谷奥克己  
運営副委員長 : 高島真澄  
事務局長 : 菅野聖子  
編集委員長 : 鈴木宗夫  
編集委員 : 高島真澄、栗原毅、宮脇稔

**研修委員長 : 栗原毅**

**関東研修委員会 : 栗原毅、山本勝美、丹澤和美**

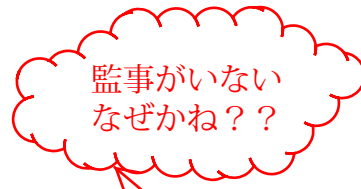
**関西研修委員会 : 亀口公一、酒木保**

学会資格認定検討担当委員 : 栗原毅、高島真澄

ヒアリング・ヴォイシズ小委員会 : 藤本豊、高島真澄、鈴木宗夫、丹澤和美、佐藤和喜雄  
諸団体担当

精神保健従事者団体懇談会 : 鈴木宗夫、丹澤和美

日本心理学諸学会連合 : 谷奥克己



こんな人物に任すよりは、いない方がよい??



**\* 地方委員会（関東、関西）は、今期は研修委員会に統合し活動することにしました。**

学術会議担当もいない；「学会」諦めた？

\*\*\*\*\*  
ホームページ一時閉鎖について

ホームページ臨時担当 : 鈴木宗夫

現在、日本臨床心理学会公式ホームページは 8 月 13 日以来、トップ画面のみを表示して閉鎖されています。この閉鎖に至った状況についてお知らせいたします。

■ホームページの一部削除

8 月 10 日の日本臨床心理学会総会では、20 期運営委員会での承認がなされずにホームページに掲載された内容の削除が決定されました。総会後に行われた、第 1 回運営委員会で鈴木が暫定的にホームページ管理を担当することになりました。

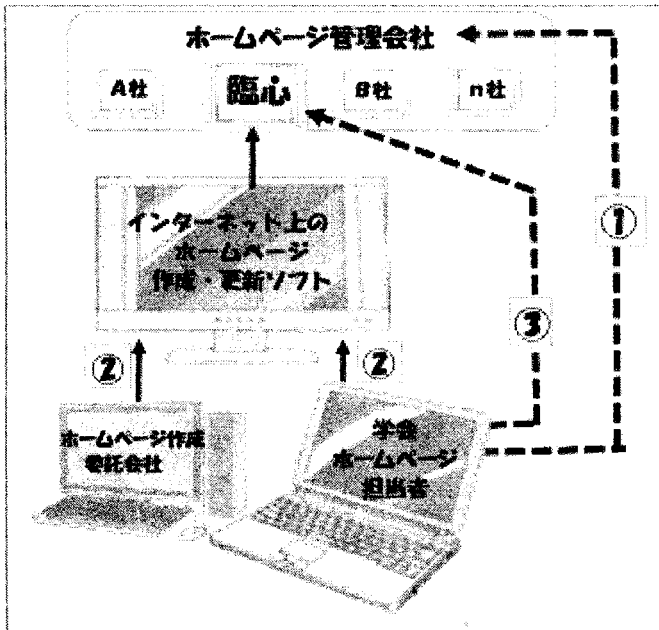
8 月 11 日の朝に前事務局長が、20 期運営委員会メーリングリスト（以下 20 期 ML）に公開した、Web 上のホームページ書き換えソフトへのログインパスワード①を用いて、その夜に削除作業を実行し始めたところ、突然、再ログインを求めるウィンドウが現れ、それ以後このパスワードでは書き換えソフトにログインできない状態になりました。これは、削除作業開始後に第 3 者がログインパスワードを変更したために起きた事態と考えられます。

ホームページ書き換えソフトのログインパスワードは、20 期運営委員と更新作業を当時委託していた業者の担当者以外は知りえないため、20 期 ML にこの事態を説明するメールを送りました。一方、ホームページ管理会社との間での、学会側の管理担当者である前事務局長に、管理会社へのログインパスワード②を教えてほしいとメールしましたが、公開したもの以外は知らないとの返答でした。その後、ホームページ管理会社に直接連絡を取り、一時的にホームページの表示の停止ができないかを相談しましたが、表示の一時停止はできないこと、また、解約しても 1 ヶ月間は表示され続けるとの回答でした。そのため、学会側の管理責任者情報を

却下

修正したいと申し入れ、8月13日の夜に修正が行われました。

8月13日の朝に再度公開された書き換えソフトへのログインパスワードでログインを試したところ、ログインが実行できた<sup>①</sup>か、ログインパスワードを変更し、総会で決議された記事と投稿とその後約35時間中に書き加えられた投稿と、修正が加えられたページを削除して、トップページには21期の運営委員会がスタートしたことを告知する文章だけを掲載し、しばらくの間ホームページの更新等中止する旨を表示しました。



- パスワードは3つ
- ① 管理会社へのログイン (担当者情報のみ)
- ② 作成・更新ソフトへのログイン (通常の書き換え作業用) 担当者と委託業者が共有
- ③ 管理会社の中の臨心のデータへログイン (直接的な書き換え可能)

- 今回起きたこと
- 1. 8月11日に変更されたのは2の書き換えソフトへのログインパスワード
- 2. 8月22日では3のパスワードを用いて書き込みが行われたものと考えられる(その後、このパスワードの存在に気がつき、管理会社を通じて変更した)

<サボタージュの鈴木>が何を言うか?! ❌

■2回目のホームページ侵入

その後、ホームページへの再侵入等のチェックをかねて編集ソフトにログインしていたところ、8月22日に再度侵入され新たな記事が掲載されたため、再び管理会社に連絡し、他に操作するためのパスワードを確認したところ、もう一つのログインパスワード③が存在することが判明しました。8月26日にはそのログインパスワードの変更も完了しました。

やれば"できる" (with a red circle around the text)

8月26日以後は今のところ侵入の形跡はありません。<sup>①</sup>

現在、日本臨床心理学会のホームページは新たに更新管理業者への委託を進めています。2月中にはリニューアルしたホームページを公開できると思いますので、会員の皆さまには大変ご心配とご迷惑をおかけいたしました。もうしばらくお待ちくださいますようお願いいたします。

却下

\*\*\*\*\*

49回日本臨床心理学会大連国際大会に参加して

榎本俊哉 (宇部フロンティア大学)

日本は梅雨、連日大雨情報がテレビのニュースをお騒がせした7月上旬、やってきました中国大連。空は青く澄み渡り、風はからっとさわやか。成長期のまっただ中にある中国ですから、乱開発による土埃で遠くが黄色くかすんで見えるのが、ちょっと残念ですけどね。

学会の会場になったのは大連大学です。会場に入った日本からの参加者を出迎えてくれたのは、色とりどりの様々な民族衣装・・・じゃなくて、私服に身を包んだたくさんの中国の大学生たちでした。見た目は色使いが若干派手なことを除けば、日本人とほとんど変わりありません

ん。なんか親近感がわいてきましたね。ほんの20年前までは中国人はほとんどみんな同じような衣装（人民服）を着ていたのに、すごい変化です。そういえば、あとで聞いたのですが、中国ではこの20年間で食料品の値段が10～20倍にもなったそうです。すごい変化ですよ。ちょっと、話がそれました・・・。

さて、学会は震災支援をテーマに始まりました。日本はもちろん、中国でも被災者の心の支援がすすめられるようになってきている現状に、私は少しの驚きを持ちながら発表を聞いていました。というのも、日本で震災後の心の支援が組織的に進められるようになったのは十数年前の阪神淡路大震災以降ですから、中国の臨床心理学の発展はめざましいなあと、そう感じたからなんですね。それから、特に印象に残っている発表は学会2日目の日本と中国のシャーマニズムについての研究ですね。シャーマニズムといえば、祈祷、お祈り、なんとなく怪しい雰囲気、の祈祷師がトランス状態になってキエーっとしている様子を想像している人もいるかもしれませんが、実際はいろいろあります。しかし大切なことは、シャーマンと呼ばれる人たちがそれぞれの地域において住民の安心に寄与してきた歴史があるということなんですね。これについては、日本も中国も一緒です。そして、地域住民の安心を支えるという意味では、カウンセラーもシャーマンも目指している目的は一緒なんですよ。そういうことに思いをはせてしまうような、興味深い学会発表でした。

もちろん最終日には、観光も楽しみました。おみやげはパンダのぬいぐるみ。パンダは今も、学会の思い出と一緒に私の部屋にいます。

\*なお、大会報告は『臨床心理学研究』に掲載の予定で現在作業を進めています。



**重要**

\*\*\*\*\*

## ヒアリング・ヴォイシズ小委員会報告

ヒアリング・ヴォイシズ小委員会とヒアリング・ヴォイシズ研究会での共同開催（東京は多摩草むらの会を加えた3団体で）で9月14日の世界ヒアリング・ヴォイシズ・デー参加企画として、東京と岡山でワークショップなどを開催しました。会員の方々には、ホームページでの周知が十分にできなかったことをお詫びします。

年明けに大阪でもヒアリング・ヴォイシズの集いを開催する予定です。

### 東京ワークショップの報告

2013年9月8日に、世界ヒアリング・ヴォイシズ・デー参加企画として、日本臨床心理学会・ヒアリング・ヴォイシズ研究会・NPO 法人多摩草むらの会の共同開催で、東京の多摩センターで「聞いていいの？話していいの？ー幻聴・妄想のことー」と題して、ヒアリング・ヴォイシズワークショップを開催しました。

当日は雨というあいにくのお天気でしたが、総勢30名の参加がありました。

最初に草むらの会メンバーさんと藤本とで実際の面接を行い、佐藤がHV25年の歩みの説明、後半は参加者全員で輪になって座り、例会と同じように話す体験をしました。

終了後はココリアホールの下の多摩草むらの会が運営する「畑 de きっちゃん」にて懇親会を行い、交流を深めました。

### <参加者の感想>

Aさん（当事者）

二日続けての参加です。TV取材のクルー（注：前日のヒアリング・ヴォイシズ東京例会でNTV系の「世界仰天ニュース」の撮影が行われたこと）も良く、皆さんの発言も実体験に基づいたもので（私は幻聴が聞こえないのですが）日本中の方々が統合失調症の辛さを知ること

が出来て大変良かったと思う。佐藤さんからは病院の患者教室で「幻聴を聞き流す」ということを発言し、褒められて嬉しかった。これからも日本中、いや世界中にHVをアピールしてほしいと思います。

Bさん（当事者）

幻聴はありませんが、被害妄想で苦しんだ時期がありました。今回参加したのも病気と向き合う何かのきっかけになればという気持ちからです。実際に声が聞こえる人と一緒に考えながら対処方法を学びました。幻聴と聞くとなんだか怖いイメージがありましたが、全くそんなことはなく、上手く付き合えば乗り越えていけることがわかりました。体験者が集まり、自分の言葉で語り合うことがHVの神髄であることがわかりました。

Cさん（草むらの会スタッフ）

「当事者が体験しているもの」や「聞こえる声」に対し、じっくり耳を傾ける事が大切であることを学びました。実際にロールプレイをしていただきましたが、言葉の前後や背景などを引き出すことで、その人が感じている事がよく理解できました。話を聴くことで、症状という先入観から抜け出せるのではないかと思います。

## 世界ヒアリング・ヴォイシズ・デー岡山の報告

<岡山で声が聞える体験を聴く集い>

日臨心のヒアリング・ヴォイシズ（以下HV）小委員会とHV研究会共催による研修企画の一環として、去る9月14日岡山県立図書館で標記の集いが開催された。30名の参加者の内、7名が聴声の体験者、10名が研究会会員（内1名が学会員）、その他が一般の人だった。

この日は世界HVデーと称して、毎年世界中でHV活動に取り組む人達が、夫々の国でHVの広報・啓発活動を行う日だった。岡山では県立図書館という良い会場を得て、有意義な集いを持つことができた。

スピーカーズ・ビューロー岡山は、精神疾患で治療を受けている当事者の会で、地域の人々に自分達の体験や思いを話し、或いは身近なふれあいを通して、精神保健について人々に正しく認識してもらえよう活動している。この会から2名の聴声体験者に話して頂いた。NPO岡山マインドの吉澤毅さんは、「幻聴」と言わず「聴声」として体験の意味を探るHV理念を重要視する。自身の人生を探求し、理不尽にはチャレンジするという歩みを話した。研究会の家族会員石橋洋子さんは、娘さんが聴声と思い込みによって行動が左右される状態を見守り続ける生活のことを話した。研究会の佐藤がHVの基本的考え方と方法について解説。フロアからも聴声体験を踏まえた発言があった。最後に精神科の柳田医師から、当事者の体験に耳を傾け、本人による声の意味づけや対処の仕方を理解することが、支援の基本になることが話された。毎日新聞の記者が全過程を取材した。今後更に取材を深め、纏まった記事にしたいとのこと。HV会員の頑張りや体験者達のご尽力で意義ある集いを持つことができた。（佐藤和喜雄）

\*\*\*\*\*

## 事務局からのお知らせ

日本臨床心理学会事務局

### 1. 精從懇フォーラムのお知らせ

本学会も参加している、精神保健従事者団体懇談会（精從懇）主催の、第7回 精神保健フォーラム「変わるのか？ 病院、地域—精神保健福祉法改正を受けて—」が2013年11月23日（土）東京の大手町サンケイプラザで開催されます。案内を同封しますので、多くのかたのご参加をお待ちしています。

### 2. 学会費納入のお願い

2013年度 学会費の納入をお願い致します。  
今年度未納の方には、郵便振込用紙を同封させていただきますので、できるだけ早い振込をお願い

いします。

また、2012 年度あるいは過年度分をお支払い頂くご意志がありながら、振込用紙がお手元にないとのことでしたら、たいへんお手間をおかけ致しますが、郵便局備え付けの振込用紙（「払込取扱票」）に以下をきれいに記入の上、お振込ください。

口座記号番号：00190-8-59797
通信欄：納入額該当年度
ご依頼人：ご住所・お名前・電話番号
金額：1年度につき8000円

前年度あるいは前年度以前の学会費未納の方につきましては、過年度に遡って合計額をお納めください。

なお、2011 年度以後に会費をお納め頂いていない方は、2013 年度末（2014 年 3 月 31 日）で自然退会となりますのでご注意ください。ぜひ引き続き本学会へのご参画を賜りたく、過年度分も併せての納入を宜しくお願い申し上げます。

海外への一時転居などの諸事情で一括の納入が難しい等がございましたら、事務局までお気軽にお問い合わせください。

また、納入の際に、「とりあえず本年度1カ年分と来年度分のみ納入」、「とりあえず来年度分の納入」等のご希望がありましたら、その旨を振込票の通信欄にてご連絡ください。ご事情毎に対応させていただきます。

退会をお考えの方で、もし過年度に未納がございましたら、未納分をお支払い頂いた上で、退会意志を事務局までお知らせください。

CP 紙の発送は 20 期ではメールでお届けしていましたが、運営委員が印刷発送することで、必要経費を抑えることが確認できたので、今回は紙面でお送りします。電子媒体での CP 紙は学会ホームページからダウンロードできるようにする予定です。



研修委員会・編集委員会；  
何をやるつもりだ??

無効

何の報告もないでは困る！



論文の投稿、審査状況など、  
報告するつもりもないようだね。。。

団体資格をどうする？

任意団体のままだと、税金がかかる。

払わないと、脱税だよ！